

～第 20 回定例総会の報告～

代表理事 小島美里

コロナ禍は第 7 波を迎え、介護現場はまたもや緊張の日々です。その上、異常気象、安倍元首相の銃撃による死、その後出てきた政権と旧統一教会との信じがたい癒着…。日本終わった！と叫びたくなるような事件が続きます。

さて第 20 回定例総会のご報告です。総会の準備はスタッフ総がかりで議案書を作成して臨みますが、ついに 100 ページになりました。当日は担当する部分をそれぞれの管理者が伝えます。傍聴された方から「皆さん自分の言葉で語っていられたね」と感想をいただきました。以下、総会の報告です。

2021 年度

まず決算は約 70 万円の黒字に。相談支援事務所棟新築の大きな出費があつてのプラス決算です。幸運にも事業所内でのクラスター感染を起こさず、コロナ禍との適切な付き合い方を模索しながら運営した各事業所の成果でした。しかし在宅介護従事者に対する扱いはあいかわらず酷く、国レベルではワクチン接種は一般枠、新座市に要望してようやく高齢者と同時期に。第6波で爆発的に感染者が増えると訪問介護が在宅感染者のサービスを継続しましたが、1 事業所総額数十万円程度の「かかり増し経費」のみ。介護施設は感染者 1 人 30 万円の補助、この差は「政治力」の差でしょうか。

大きな新規事業は、相談支援と基幹相談支援の事務所建築。コロナ禍での資材未入荷や高騰に悩まされながら、何とか年度内に完成。この建物、2 階部分に将来緊急避難にも利用できる居室を作っておきました。

歳月を感じる年度でした。ボランティア時代からの(約 30 年)一人暮らしの利用者さんが亡くなりました。若い時の病気でほぼベッド上の生活でしたが、料理番組でおぼえた調理法を伝えるなど生活を楽しむ姿勢に教えられました。また、かつて親御さんが利用された方、元スタッフが利用者になるケースも増えています。地域に着実に根付いていることを実感した年度でした。

2022 年度計画

暮らしネット・えんは 2003 年 4 月に事業開始しましたから、来年春 20 周年を迎えます。今年度は足跡を振り返り、地域に向けての発信力を強めることに力を入れます。さすがに法人設立より後から入ってきた職員が多くなり、もう一度介護 NPO えんのこれまでとこれからを考える機会にします。

また、2023 年に予定される介護保険改正は今年度内には介護保険部会での議論を終えてしまいます。利用料 2 割負担の標準化(今の倍!)、ケアプランの有料化等々、最悪と言われる改正案に現場からの声を届けて何とか阻止していかなければ、高齢者の生活が破壊されてしまいます。

そして、日常の賑わいが取り戻せるよう準備しつつ、感染対策を怠らず、コロナ禍の収束を待ちましょう。



イラスト／細井美風